



【うえだ子どもシネマクラブ】

そうだ、今日は映画館に行こう！

学校に行きづらい、または行くのをやめてしまった子どもたちのための上映会【うえだ子どもシネマクラブ】。月2回の上映会のほか、水曜日と金曜日には映画館で過ごしていただくことができます。学校に行きづらい日は映画館へぜひお越しください！

日程：5月9日（月）

作品：10:00～『夢みる学校』

13:00～『GAGARINE／ガガーリン』

日程：5月23日（月）

作品：10:00～『ハイジアルプスの物語（吹）』

13:00～『スザンヌ、16歳』

こちらの上映会は登録制になっています。詳細は劇場窓口または、NPOアイダオ（080-4813-1110）までお問い合わせください。



詳細はこちらから▶



5月の「おやつ販売」のご案内

少しずつ定着しつつある映劇のおやつ企画。4月末から新たにリベルテさんのクッキー販売を始めたほか、今月もいつもの皆さんが映画のお供に最高のおやつを提供してください。ルヴァンのスコーンやベルベデーレも日々不定期で入荷しているほか、現在開催中のmusubisyaのポップアップショップでも、ショートブレッドやチョコレートを販売しています。重澤珈琲（映劇内）とともに、ぜひお楽しみください！

ナグモドーナツ

NAGMO DONUTS

日程：5/7（土）

オーガニックショートニングを使用した、サクサク食感と香りがたのしいドーナツの販売

instagram▶



にちにおやつ なぎ

日程：5/28（土）

卵・乳製品・白砂糖不使用のおやつ販売

instagram▶



コトコト

cotocoto

日程：5/14（土）

酵素玄米おにぎりと酵素玄米おにぎり（醤油糍つき）の販売

instagram▶



ポップコーン

pop i corn

日程：5/14（土）

「週末こども映画館」の上映に合わせてキャラメルポップコーンなど販売

侍学園 公開授業

「もう」は「まだ」なり、「まだ」は「もう」なり

もう大丈夫だと思っても、上手いかなかった経験ありませんか？まだダメだと思っても、上手い経験ありませんか？「もう」と思っても、「まだ」だし、「まだ」と思ったら「もう」だったりします。

今回の授業は自己分析のワークショップをおこなう参加型授業です。自己分析から自己理解をすすめ、一步踏み出すタイミングや方向性を考えて、社会の中で自分を活かしていくライフプランを練り上げます。

日程：5月21日（日）

13:00 開場 13:30 開演

入場無料

お問合せ & お申込み 0268-38-0063

主催：認定NPO法人 侍学園スクオーラ

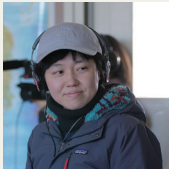
無料相談会
あります
(要予約)

0268-38-0063

EIGEKI COLUMN

第54回

この春のはなし



引っ越しついでに取り始めた新聞の一面は日々、戦争のことを伝えている。戦禍に巻き込まれている人々は当然のこと、伸び続ける枝のように無数に派生して生活を脅かされる人々が増え続ける状況を知れば、当たり前にもを食べ、水や電気を享受して生活し、温かい布団の中で眠ることができる自分に負い目を感じずにはいられない。

新聞記事やニュースから知ることができる情報はごくごく一部で、数行のテキストが伝えようとしていることを自分の内に想像するためには、イメージを持たなければいけない。私たちは、映画が生活の一部として当たり前存在するようになって久しい時代に生まれたので、自らのうちに持つイメージを、今まで見てきた映画に頼ることが多いはずだ。戦地の状況を伝える記事を読めば、『プライベート・ライアン』でノルマンディ港に上陸する軍隊の凄まじい戦闘シーンを思い浮かべて、その生々しさを実感に近いレベルで想像する。映画が後々になってもたらず不幸を想像するためには、『アメリカン・スナイパー』で主人公が帰還してからの場面を思い出す。また、別の国で起きている戦争が自国の経済に打撃を与え、職を失い、困窮している人々について考えるためには、『サンドラの週末』の主人公や、『家族を想うとき』の主人公一家のことを思えば、まるで自分のことのように感情や感覚を伴ってイメージを持つことができる。

近年ヒットする映画と言えば「本当にこれは映画か？」と議論を呼ぶようなものばかりだが、例えば映劇でかかるような「映画」を見ておくことは、あらゆる局面で豊かなイメージを自分のうちに持つために、つまりは生きていくために必要なことなのだと改めて思う春である。

tsuruoka keiko

鶴岡 慧子

映画監督／脚本家

上田市出身。神戸芸術工科大学映像表現学科助教。当劇場理事。初長編作品『くじらのまち』が、PFFアワード2012においてグランプリ & ジューストーン賞をW受賞、その後世界各国の映画祭にて上映される。2015年『過ぐる日のやまねこ』で劇場デビュー。最新作は西加奈子の同名小説が原作の『まく子』。信濃毎日新聞「シネマ魅どころ」に映画評を隔週連載中。

第36回

ちょっとひと息



先日、上田市日本遺産推進協議会で発行した絵本「おひさまはみている」の朗読動画とトークセッションを屏の角にて撮影しました。

昨年、信濃国分寺から塩田平の生島足島神社、泥宮へと続く道「太陽と大地の聖地」が正式に日本遺産に認定され、それを記念し、「塩田平ため池を愛する会」「ヤマンバの会」の皆様が作成した絵本とカルタを朗読しました。

撮影当日は、まず塩田平にある、ため池の歴史や土地に伝わる貴重なお話を伺いました。その後私は、絵本を朗読させていただき、絵本の中に出てくる太鼓の音は、上田市在住の和太鼓奏者の大日方譲治さんに演奏していただきました。また、別日には、長野大学の学生の皆様と「屏の角」のイロイロ倶楽部の子供達によるカルタ遊びとトークセッションも収録されました。故郷の歴史、文化を学びあらためて上田の素晴らしさを知った有難い時間となりました。絵本朗読とカルタ遊び、其々のトークセッションは、共に上田市の行政チャンネルにてご覧頂けます。

さて、今年の春も「真田まつり」は延期になりました。毎春、上田の桜を愛でながら、上田市観光大使として真田まつりに参加するのを楽しみにしていたのですが、このコロナ禍では、仕方ありません。お花見もできない代わりに、上田城の千本桜の美しい写真や動画を家族や友人達から送ってもらいましたが、実際近くで見れなくても、色々な表情をしている桜の写真などを見る度に、上田に春が来た！とワクワクします。

また、春の花と言えば、桜の少し前に咲く梅の花も大好きです。寒空に厳かに咲く梅の花の強さに惹かれます。春を愛する人は心清き人、。芹洋子さんの「四季の歌」にてくる歌詞ですが、私も心清くしたいものです。

tsukikage hitomi

月影 瞳

元宝塚歌劇団・娘役トップスター

長野県上田市出身。上田市観光大使。当劇場理事。1990年「ベルサイユのばら」で初舞台。入団2年目で新人公演、初ヒロインを演じる。1997年「誠の群像」で星組トップ娘役となる。その後雪組に組替えし引き続きトップ娘役としてミュージカルやショーなどで活躍する。2002年に「愛燃える/Rose Garden」で退団。退団後は舞台、コンサートや映画など、活躍の場を広げている。

vol.51

ビーよりディー
気持ちは $P \leq D$ 

監督志望の僕がプロデューサーになって、携わった作品でいつも予想外なのが『THE 3名様』だ。佐藤隆太、岡田義徳、塚本高史の3人がファミレスでただダラダラと話しているだけの物語だ。そんな『THE 3名様』が映画になって12年ぶりに帰って来た。そして、この連載を続けている上田映劇でも上映される。感無量である。『サムライフ』で僕を映画監督にしてくれた街・上田。そこにある映画館で上映される久しぶりの監督作品だ。元々は今をときめく映画監督の福田雄一さんの監督デビュー作としてヒットしたものだった。そのぶん今回、監督を引き継ぐことにはプレッシャーがなかったと言い切れない。しかし、企画の始まりがああ3人な訳だから、そこは3人との連携でなんとかなるはずだと思い、監督を引き受けた。正直、コメディは難しい。人それぞれにツボがあり、況してや言語や文化を越えると途端に理解不能になる。『THE 3名様』には独特のトンマナがあり、初めて観る人には「？」な部分もあるに違いない。その不安を打ち消すために、今回は企画段階から主演の3人にも深く関わってもらった。原作者の石原まこちん先生が書かれた20本以上の脚本を演者の3人と一緒に解析し、今回撮影するエピソードを絞り込んだ。また、撮影現場でもそれは続き、台本にしたのに撮影しなかったエピソードもあった。それくらい、ある意味ストイックに作っているのだが、それは微塵にも感じさせないのが『THE 3名様』なのだと今回監督して改めて思った。1週間限定公開から始まった劇場版だが、最初は映画館での上映が実現するとは誰も思っていなかった。しかし、蓋を開けてみると初日から満席が続き、平日もチケットが完売するなどという奇跡が起き始めた。正直、予想外。でも、これはきっと12年前に『THE 3名様』と共に「青春」を過ごした人たちが大人になっても、その時の仲間やあの3人と一緒に笑ったり泣いたりすることを変わらず求めているくれた証拠だと思う。感謝しかない。せっかく復活したのだから今回の一作だけでは寂しい。ファンの皆さんから頂いたパワーを胸に何処まで走れるかをやってみたいと思う。『男はつらいよ』のように続くシリーズになればなどと言う無謀な夢を見ずにはいられない。(つづく)

moriya takeshi

森谷 雄

プロデューサー／映画監督

愛知県生まれ。株式会社アットムービー代表。当劇場理事。「天体観測」(フジテレビ)、「ザ・クイズショウ」(日本テレビ)、「深夜食堂」(毎日放送)などのドラマをプロデュース。映画作品は『しあわせのパン』(三島有紀子監督)、『曇天に笑う』(本広克行監督)ほか多数。監督作品に『サムライフ』がある。最新作は『ミッドナイトスワン』(内田英治監督)。